

神奈川県微生物検査情報

<http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/>

神奈川県衛生研究所

第 160 号

(2006年 3月)

平成 18年 5月 25日発行

特集：今後の発生動向にご注意！（感染症発生動向調査より）

- ・流行性耳下腺炎（おたふく風邪）
- ・咽頭結膜熱(プール熱)

ヒト由来細菌情報

- 検査定点からの依頼によるもの
 - ・カンピロバクター ジェジュニーおよび病原大腸菌が検出された。
 - ・A群溶血レンサ球菌が検出された。
- その他
 - ・医療機関からの患者発生届に伴う関係者調査を実施したところ、腸管出血性大腸菌が検出された。
 - ・医療機関からの依頼検査検体からA群溶血レンサ球菌が検出された。
 - ・依頼検査検体からサルモネラが検出された。

食品由来細菌情報

鶏肉の行政検査でサルモネラおよびカンピロバクター ジェジュニーが検出された。

環境由来細菌情報

県内定点 10ヶ所の河川水調査で、O1&O139 以外のコレラ菌、サルモネラが検出された。
鶏肉処理店舗のふきとり検査でサルモネラおよびカンピロバクター ジェジュニーが検出された。
レジオネラの依頼検査検体からレジオネラ ニューモフィラが検出された。

結核 QFT 検査情報

18年3月は、2事例9件の検査依頼があり、陽性例がそれぞれ1件ずつ、計2件検出された。

集団発生情報

- 県域での発生
(細菌)
 - ・集団食中毒事例が2事例発生し、2事例ともカンピロバクター ジェジュニーが検出された。
- (ウイルス)
 - ・食中毒様胃腸炎の発生は3事例であった。そのうち1事例からノロウイルスが検出された。
 - ・感染性胃腸炎の発生は2事例であった。1事例からノロウイルスが、1事例からロタウイルスが検出された。
- 県域外発生関連調査
 - ・他の自治体で発生した食中毒様胃腸炎4事例の検査依頼があり、すべての事例からノロウイルスが検出された。

ウイルス情報

- 検査定点からの依頼によるもの
 - ・3月に採取された検体から検出されたウイルスは、インフルエンザウイルス A(H1)型が6、インフルエンザウイルス A(H3)型が1、アデノウイルス1型が1、アデノウイルス3型が1、ロタウイルスが8であった。

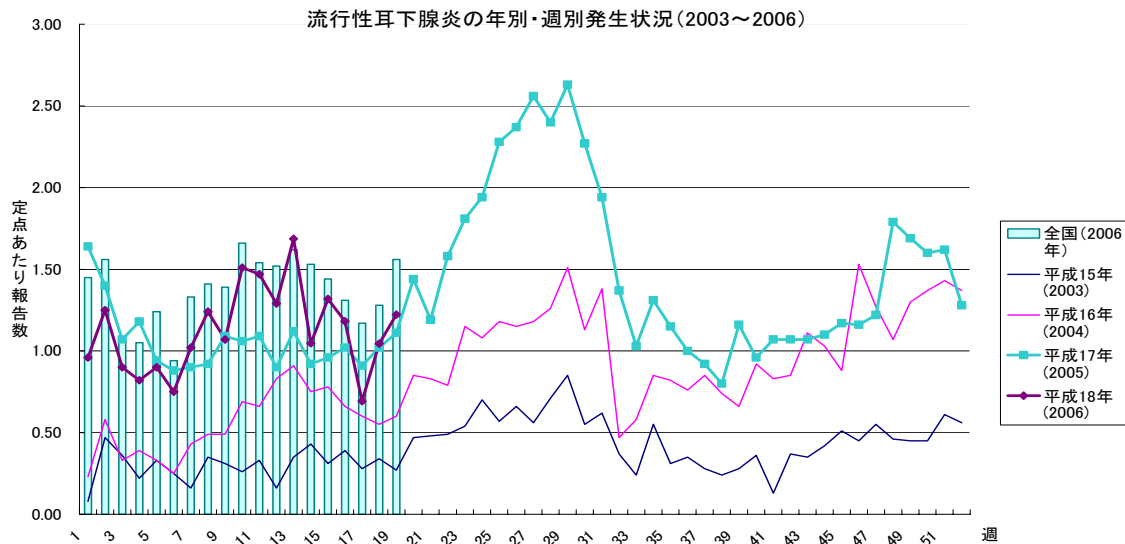
(微生物部・地域調査部)

話題

今後の発生動向にご注意！（感染症発生動向調査より）

・ 流行性耳下腺炎（おたふく風邪）

2006年の流行性耳下腺炎の発生動向については第19週まででみると、神奈川県は全国の発生動向とほぼ同様の状態を示している。しかし、この状態は報告の多かった2005年を上回った状態である。「神奈川県感染症発生情報（週報）」でも流行性耳下腺炎の流行について“例年より報告数が多い”と毎週のようにコメントされているため夏季に向かって発生動向に注意が必要である。国の週報（第12週）でも同様の注意喚起がされている。



流行性耳下腺炎とは

2～7歳の子を中心とした小児に好発する疾患である。本症の臨床経過は、基本的には軽症と考えられている。2～3週間の潜伏期（平均18日前後）を経て、唾液腺の腫脹・圧痛、嚥下痛、発熱を主症状として発症し、片側あるいは両側性の唾液腺の痛性腫脹を特徴とするウイルス性感染症である。通常1～2週間で軽快するが、無菌性髄膜炎等の合併症を起こす場合がある。

感染はヒトからヒト間の接触、あるいは飛沫感染で伝播する。

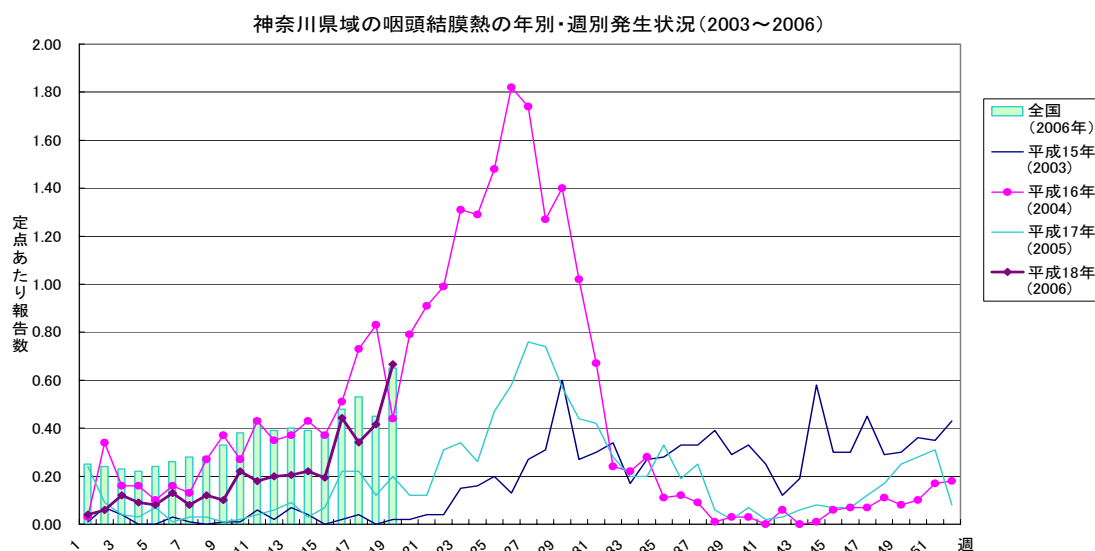
参考資料；

- ・ 感染症発生動向調査 週報（国立感染症研）2006年第12週 「注目すべき感染症」
- ・ 病原微生物検出情報（国立感染症研）2005年 Vol26(9) 「神奈川県における流行性耳下腺炎の流行」
- ・ 感染症発生情報 週報（神奈川県感染症情報センター）

http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003_center/03_center_main.htm

・ 咽頭結膜熱（プール熱）

全国の2006年の発生動向は、過去10年間と比較してもっとも報告の多い状態が続いているが、神奈川県では報告の多かった2004年をまだ上回っていない。しかし、「神奈川県感染症発生情報（週報）」でコメントされているように第16週（4/17～4/23）から報告数は増加傾向となっている。本疾患は別名プール熱といわれているように、例年夏季に発生のピークがあるため、今後さらに発生が増加すると考えられるので、その発生動向には注意が必要である。



咽頭結膜熱とは

主に、アデノウイルス3型（他に1, 4, 7, 17型など）に感染することによって生じる咽頭炎、結膜炎を主とする急性ウイルス性感染症である。感染経路は通常、飛沫感染、あるいは手指を介した接触感染であり、結膜あるいは上気道からの感染である。潜伏期は5～7日とされている。有症状期間は3～5日間程度である。

予防としては、感染者との密接な接触を避けること、流行時にうがいや手指の消毒を励行することなどである。

参考資料

- ・ 感染症発生動向調査 週報（国立感染症研）2006年第14週 「注目すべき感染症」
- ・ 感染症発生動向調査 週報（国立感染症研）2003年第14週 「感染症の話」
- ・ 感染症発生情報 週報（神奈川県感染症情報センター）

http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003_center/03_center_main.htm

（企画情報部）

表1 ヒト由来検査件数及び病原菌検出状況(検査材料取扱い機関別)—平成18年3月

	平塚保健所	鎌倉保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	藤沢保健所	小計	衛生研究所	合計
取り扱い検査件数	299	15	802	446	9	213	288	71	185	55		2383	27	2410
海外渡航者数							1					1		1
腸管出血性大腸菌							1					1	2	3
病原大腸菌													1	1
サルモネラ O8群							1					1		1
サルモネラ O9群			1									1		1
カンピロバクター ジェジュニー			1				4					5	2	7
A群溶血レンサ球菌													5	5

ヒト由来の検体2,410件を検査した。

鎌倉保健所の医療機関からの腸管出血性大腸菌の患者発生届に伴う関係者調査で、患者から腸管出血性大腸菌(血清型O28ac, VT2保有)が2件検出された。

厚木保健所の医療機関からの腸管出血性大腸菌の患者発生届に伴う関係者調査で、接触者から腸管出血性大腸菌 O157:H7(VT2保有)が1件検出された。

定点医療機関より依頼のあった感染性胃腸炎患者便9件について検査したところ、カンピロバクター ジェジュニー2件および病原大腸菌(血清型O18、Stx遺伝子非保有)1件が検出された。

厚木保健所の食中毒集団事例で、カンピロバクター ジェジュニーが患者より3件、従事者から1件検出され、カンピロバクター ジェジュニーが原因菌であった。さらに他の従事者よりサルモネラ O8群が1件検出された。

小田原保健所の食中毒集団事例で、患者からカンピロバクター ジェジュニーが1件検出された。

小田原保健所の依頼検便からサルモネラO9群(血清型Victoria)が1件検出された。

定点医療機関より依頼のあったA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者検体、ならびに医療機関の依頼検体からA群溶血レンサ球菌が、それぞれ3件(血清型T4; 2件、T12; 1件)、2件(血清型T13)検出された。

表2 食品由来検査件数及び病原菌検出状況(検査材料取扱い機関別)—平成18年3月

	平塚保健所	鎌倉保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	藤沢保健所	小計	衛生研究所	合計
取り扱い検査件数		33	7	8		5	5		107			165	24	189
サルモネラ O4群													2	2
サルモネラ O7群													22	
サルモネラ O8群													2	
カンピロバクター ジェジュニー			1									1	12	13

食品由来の検体189件を検査した。

小田原保健所の食中毒集団事例で、食材からカンピロバクター ジェジュニーが1件検出された。

鶏肉の行政検査を実施したところ、サルモネラO4群2件(血清型Schwarzengrund)、サルモネラO7群22件(血清型Infantis)、サルモネラO8群2件(血清型Hadar)、カンピロバクター ジェジュニー12件が検出された。

表3 環境由来検査件数及び病原菌検出状況(検査材料取扱い機関別)―平成18年3月

	平塚保健所	鎌倉保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	藤沢保健所	小計	衛生研究所	合計
取り扱い検査件数		10	16				14	8	12			60	39	99
サルモネラ O4群													1	1
サルモネラ O7群													4	4
サルモネラ O9群													1	1
O1&O139以外コレラ菌													2	2
キャンピロバクター ジェジュニー													5	5
レジオネラ ニューモフィラ 1群									1			1		1

県内定点10カ所の河川水腸管系病原菌調査を行ったところ、O1&O139以外のコレラ菌2件、サルモネラO4群1件（型別不能）、サルモネラO7群2件（血清型Infantis）、サルモネラO9群1件（血清型Javiana）が検出された。

鶏肉処理店舗のふきとり検査を実施したところ、サルモネラO7群2件（血清型Infantis）、カンピロバクター ジェジュニー5件が検出された。

足柄上保健所のレジオネラ検査検体からレジオネラ ニューモフィラ（血清型1群）が1件検出された。

表4 結核QFT検査実施状況 ―平成18年3月

	平塚保健所	鎌倉保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	藤沢保健所	合計
取り扱い検査件数				8		1						9
陽性（+）				1		1						2
判定保留（±）												

18年3月は、茅ヶ崎および秦野保健所から、結核接触者検診に基づく2事例9件の検査依頼があり、茅ヶ崎保健所管内および秦野保健所管内で陽性例がそれぞれ1件ずつ、計2件検出された。

表5 ウイルス検出状況(月別) -平成18年3月

疾患名 検出ウイルス	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成17年計	1月	2月	3月	平成18年累計
インフルエンザ AH1										6	6	19	19	6	44
インフルエンザ AH3	13									3	77	136	35	1	172
インフルエンザ B	9										105				
パラインフルエンザ 1												1	1		2
R S									1		1		1		1
ポリオ 3			1								1				
コクサッキー A4					1						1				
コクサッキー A5						1					1				
コクサッキー A6			2	9	11						22				
コクサッキー A9								1			1				
コクサッキー A10				1				1			2				
コクサッキー A16				4	4	2	4				15				
コクサッキー B3					1						1				
エコー 3				2	1						3				
エコー 6				2							2				
エンテロ 71			1		4	4			1		10				
パレコー 1								1			1				
ムンプス			5	10	2			2	1	1	21		1		1
アデノ 1														1	1
アデノ 2			1	1	1						4		1		1
アデノ 3				1		1		1	1	1	8		2	1	3
アデノ 4	1										1		1		1
アデノ 5			1								1				
アデノ 40/41									2		2				
単純ヘルペス 1				1				2			4	1			1
ロ タ	12	1	12							1	27	1		19	20
ノ 口	23	2	17	7				1	21	44	237	80	13	13	106
サ ポ			31								31				
未 同 定	1			1	2	2			1	2	9				
オリエンチア ツツガムシ								1	12		13				
合 計	59	3	71	39	27	10	4	10	40	58	607	238	74	41	353

表6 ウイルス検出状況(疾患別) ー平成18年3月

疾患名 検出ウイルス	ウエストナイル熱	つつが虫病	デング熱	急性脳炎	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	除麻しん(成人麻しんを)	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	無菌性髄膜炎	食中毒	その他の	合計
取り扱い検査件数						1	56					11		25	18	111
インフルエンザ AH1												6				6
インフルエンザ AH3												1				1
アデノ 1															1	1
アデノ 3															1	1
ロタ							19									19
ノロ							4							9		13

3月分コメント

○集団発生

- ・平成18年3月、県域で食中毒様胃腸炎の集団発生が3事例あり、そのうちの1事例の患者便2検体中1検体からノロウイルスが検出された。
- ・感染性胃腸炎の集団発生は2事例あり、1事例は患者便4検体中3検体、調理従事者便11検体中1検体からノロウイルスが検出された。また他の1事例からは患者便11検体中9検体、調理従事者便13検体中2検体からロタウイルスが検出された。

○県域外発生関連調査

- ・他の自治体から依頼のあった食中毒様胃腸炎4事例の患者便8検体中8検体からノロウイルスが検出された。

○発生動向調査の病原体検査定点からの依頼によるもの

- ・インフルエンザ様疾患患者の咽頭(または鼻腔)拭い液11検体を検査したところ、インフルエンザウイルスA(H1)型6株、インフルエンザウイルスA(H3)型1株が分離された。
- ・感染性胃腸炎の患者便17検体を検査したところ、8検体からロタウイルスが検出された。
- ・その他、熱性けいれん重責発作を呈した患者の咽頭拭い液からアデノウイルス1型、アデノウイルス感染症が疑われた患者の咽頭拭い液からアデノウイルス3型が分離された。

○県域保健所受付HIV抗体検査

- ・3月は、63件について検査したところ、すべて陰性であった。